
狙撃兵の日記

A市市庁市史編纂室長

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

狙撃兵の日記

【コード】

N5143D

【作者名】

A市市庁市史編纂室長

【あらすじ】

知る人しか知らないシリーズ第2弾。今度は亜熱帯の戦場。狙撃兵のマリーン・ボーイ。

(前書き)

狙撃兵のはなしです。狙う側と狙われる側との緊迫感が出ていれば良いなと思います。

「弾も、砲弾の破片も、当たる時は当たるし、当たらないときは当たらない。ゆえにこれに留意する必要は無い。ただし狙撃兵だけに注意せよ。何故なら、それには当たるときも当たらないときも無い。百発百中だからだ」。海兵隊野戦教範より。

肩に届くか届かないかぐらいのところまで切りそろえられた黒髪。くせがなくさらさらで、ちよつとした風にもなびく。可愛い顔には、しかしツンとした表情をたたえている。

周囲に指示を出しているところを見ると彼女が指揮官なのだろう。ほかにそれらしい者も見当たらないし、腰に拳銃のホルスターをつけている。

残念。かわいい女の子なのに。16もいってないんじゃないか。ま、だとしても僕も同じだけど。

僕はそれだけ考えると、双眼鏡メガネを置いた。そして脇に立ててあったライフルを引き寄せる。腰のポケットからガムを取り出して口に入れる。

足元が冷たい。昨夜の雨のせいで毛布がずぶぬれになってしまったのだ。しかし体に巻いてある毛布を取る気にはなれない。こんなジャングルで、地面に何がいるか知れたもんじゃない。とても野戦服一枚で寝転んでいる気にはなれない。

ライフルの銃床を脇に挟み、しっかりと固定する。口の中では、粘つき始めたガムがくちやくちやくと音を立てる。周囲のジャングルからは、もう慣れてしまったような不気味な鳥のさえずりがする。しかし、それ以外に音は無い。

コックを上にあげ、手前に引く。ガチャ、ガチャリという金属音が妙にはつきりと響く。安全装置が外れているのを確認して、照準装置スコープを覗き込んだ。

いらいら。そう口に出してしまいそうだ。

昨日、ピモアンの師団司令部から送られてきた71人の補充兵たち。一週間の速成訓練だけでは仕方が無いことかもしれないが、あまりにも手際が悪すぎて腹が立つ。

私は連隊長に命じられて、彼らを引きつれ「首切り峠」で苦戦しているE中隊の援護に行かなければならない。今日中に。

しかし、彼らの行軍速度はあまりにも遅かった。私のことを「小娘」だの言つて馬鹿にするくせに、一行程もしないうちに疲れたと言い出す始末。しょうがないから小休止にしてみればしてみたで、水を探しに行った奴らが帰つてこない。

逃亡か、道に迷つたか。まあ、役立たずと言つても邦を守ることに關しては純粹なやつらなようだから、おそらく後者だろう。しかしだとしたら本当に役に立たない。

比較的ましな奴を隊長にして搜索隊を出したのが1時間と半分前ところが最初のやつらどころか搜索隊まで帰つてこない。目下2次搜索隊を編成中。

これでは今日中に「首切り峠」は無理かもしれない。しかし無理で済まされることでもないだろう。もしこの遅れが原因で峠が突破されたら。ただでさえ多い敵。縦深の浅い陣形の連隊は総崩れしかない。

この時間が、今どうしようもなく突っ立っているこの時間が、連隊の首を絞めてしまっているかと思うと、もう。

少しでもいらつきを抑えようと前髪を掻き揚げてみるが、何か変わるものでもない。

2次搜索隊の隊長が出発準備完了を報告した。

スコープの中心に少女の姿を捉える。肩幅からして600メートルくらいだろう。照準機を600にあわせる。

ぶかぶかの帽子を被つた可愛い頭に照準を合わせる。まだ、指は

用心鉄にかけたまま。ごめんなさい。神様。お母さん。可愛い女の子の頭を撃ち抜きます。

指を引き金にかける。ゆっくり息を吐く。一瞬ぼうつとして、それからゆらいだ焦点が合う。

その一瞬をねらって、僕は、引き金を引いた。

銃声は、遠かった。

目の前、2次搜索隊の隊長がうめきながら鼻を押さえている。指の間からは血。狙撃だ。

「全員！伏せろっ！」

言いながら自分も野に伏せる。油断していた。いらつきすぎて、敵の狙撃兵のことなんて考えても見なかった。まったく。くそ。

外した。風が吹いてる。思いながら、手が動く。コックを引いて押し戻し再装填。空薬莢が音も無く地面に落ちる。

こうなったら、あの子をヤルしかない。距離は600メートルあるが、しょせん600メートルだ。やつら機関銃も持つてる。逃げ切れないかもしれない。頭つぶして混乱させるしかない。

地面に伏せっている彼女。しかし、山の上のここからはその背中まで丸見え。今度は風も計算に入れて、照準する。

もう余裕がなくなっていた。すぐに引き金を引いた。

一瞬し、彼女の体が少し跳ねた。気がする。血は見えない。もう一発。再装填し、今度は背中に叩き込む。

今度は血が出た。彼女の軍服の背中が茶色く染まる。でも背中だ。もう一発。

彼女は相変わらず伏せたままだが、頭が地面にのめり込む形になっっている。やった。

数秒、野に横たわる彼女の死体を見つめてから、立ち上がる。木の根元に隠してあったザックを担ぎ、ライフルを肩にかける。毛布をたたんで腰に巻きつける。

ああ、怖かった。今回は早めに切り上げよう。
草の間に転がった空薬莖を4つ拾い上げてポケットに入れると、
南に向かって歩き出した。

77 / Aug / 12

戦果：かわゆい女の子一人。多分中尉。

神よ、罪深き我を許したまえ。

陸軍第110空挺連隊G中隊キャンプにて

^{アイミ}陸軍のレーションはまずい。

(後書き)

どうだったでしょうか。感想をいただければうれしいです。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5143d/>

狙撃兵の日記

2008年11月7日08時14分発行